

令和5年 火災統計



火を消して 不安を消して つなぐ未来

天童市消防本部

目 次

	ページ
用語の説明	1
1. 火災の概要	2
2. 火災発生件数の推移	3
3. 過去10年間の出火率の推移	3
4. 火災による死者の状況	4
5. 四季別火災発生状況	4
6. 月別火災発生状況	5
7. 時間帯別火災発生状況	5
8. 覚知別火災発生状況	6
9. 火災による損害額の状況	6
10. 原因別火災発生状況	7
11. 初期消火の状況	7
12. 過去3年間の火災構成比	8
13. 地区別火災発生状況	8
14. 過去10年間の地区別火災発生状況	8

用語の説明

火災の種別について

建 物 火 災	建物又はその収容物が焼損した火災
林 野 火 災	森林、原野、牧野が焼損した火災
車 両 火 災	自動車車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災
そ の 他 の 火 災	上記以外の火災

焼損程度について

全 焼	建物の焼き損害額が火災前の評価額の70パーセント以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。
半 焼	建物の焼き損害額が火災前の評価額の20パーセント以上のもので、全焼に該当しないものをいう。
部 分 焼	建物の焼き損害額が火災前の評価額の20パーセント未満のもので、ぼやに該当しないものをいう。
ぼ や	建物の焼き損害額が火災前の評価額の10パーセント未満であり焼損床面積が1平方メートル未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の評価額の10パーセント未満であり焼損表面積が1平方メートル未満のもの又は収容物のみ焼損したものをいう。

焼損面積について

床 面 積	建物の焼損が立体的に及んだ場合に、建物としての機能が失われた部分について、その部分の水平投影面積をいう。
表 面 積	建物の焼損が部分的であり、立体的に焼損が及ばなかった場合の面積をいう。（例えば、内壁、天井、床板等で、その表面的な一部分のみが焼損したもの。）

損害額について

火災損害	火災によって受けた直接的な損害をいい、消火のために要した経費、焼跡整理費、り災のための休業による損失等の間接的な損害を除く。
------	--

1. 火災の概要

この火災統計は、令和5年1月から令和5年12月の火災発生状況を集計・分析したものです。本市での火災件数は11件で、前年より6件の減となっています。

火災を4つの種別に区分し、その構成比についてみると「建物火災」は7件で全火災のうち約64%、「林野火災」は0件、「車両火災」は1件で約9%、「その他の火災」(空地・河川敷の枯草等の火災)は3件で約27%となっています。

	単位	令和5年	令和4年	増・減(△)
		(A)	(B)	(A) - (B)
出火件数	件	11	17	△6
建物		7	13	△6
林野				
車両		1		1
その他		3	4	△1
焼損棟数	棟	7	24	△17
全焼		3	9	△6
半焼		1	2	△1
部分焼		2	5	△3
ぼや		1	8	△7
建物焼損床面積	㎡	665	1,162	△497
建物焼損表面積			40	△40
林野焼損面積	a			
死者	人		2	△2
負傷者		5	6	△1
り災世帯数	世帯	6	24	△18
全損		5	6	△1
半損				
小損		1	6	△5
水損			12	△12
り災人員	人	11	44	△33
損害額	千円	61,178	87,447	△26,269
建物		61,131	80,932	△19,801
林野				
車両		27	315	△288
その他		20	6,200	△6,180
出火率		1.8	2.7	△0.9

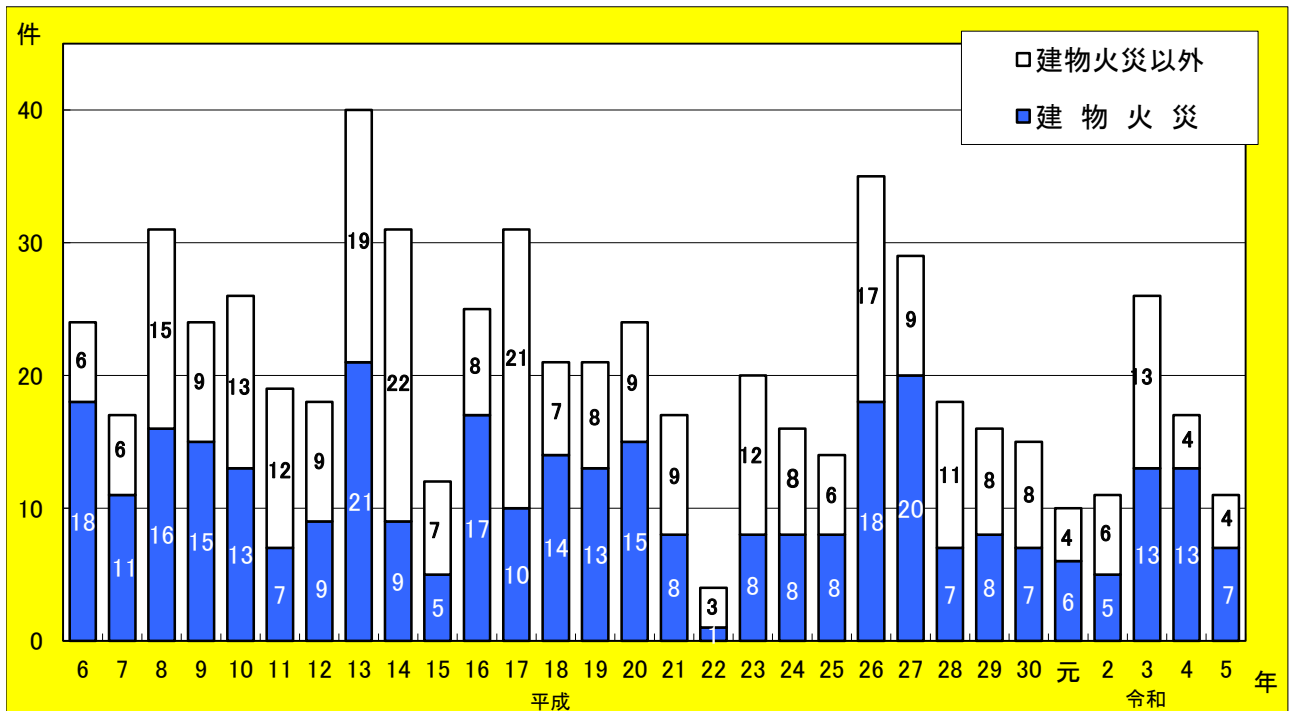
備考 1 △は、減を表す。

2 出火率：人口1万人当たりの出火件数

3 人口：住民基本台帳 令和5年12月末日(60,627人)
令和4年12月末日(61,052人)

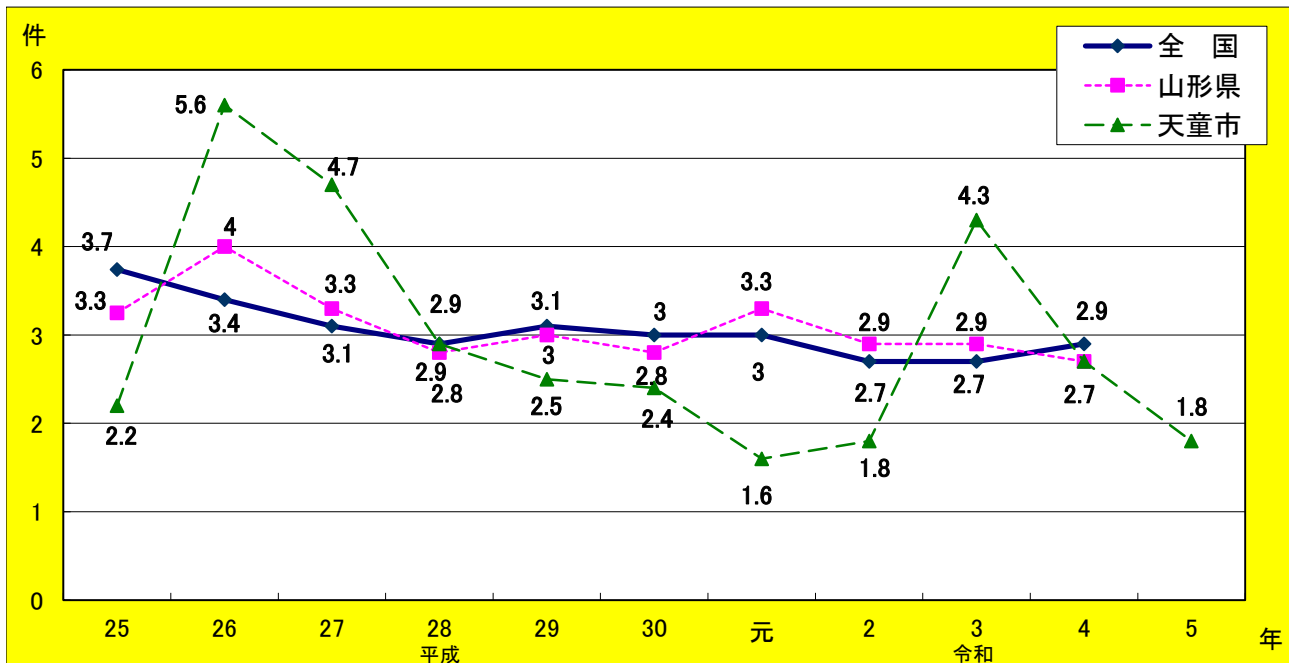
2. 火災発生件数の推移

本市における令和5年中の火災件数は11件で、平成6年から30年間の平均約21件を下回る結果となりました。また、全火災のうち建物火災が占める割合は約53%となっています。



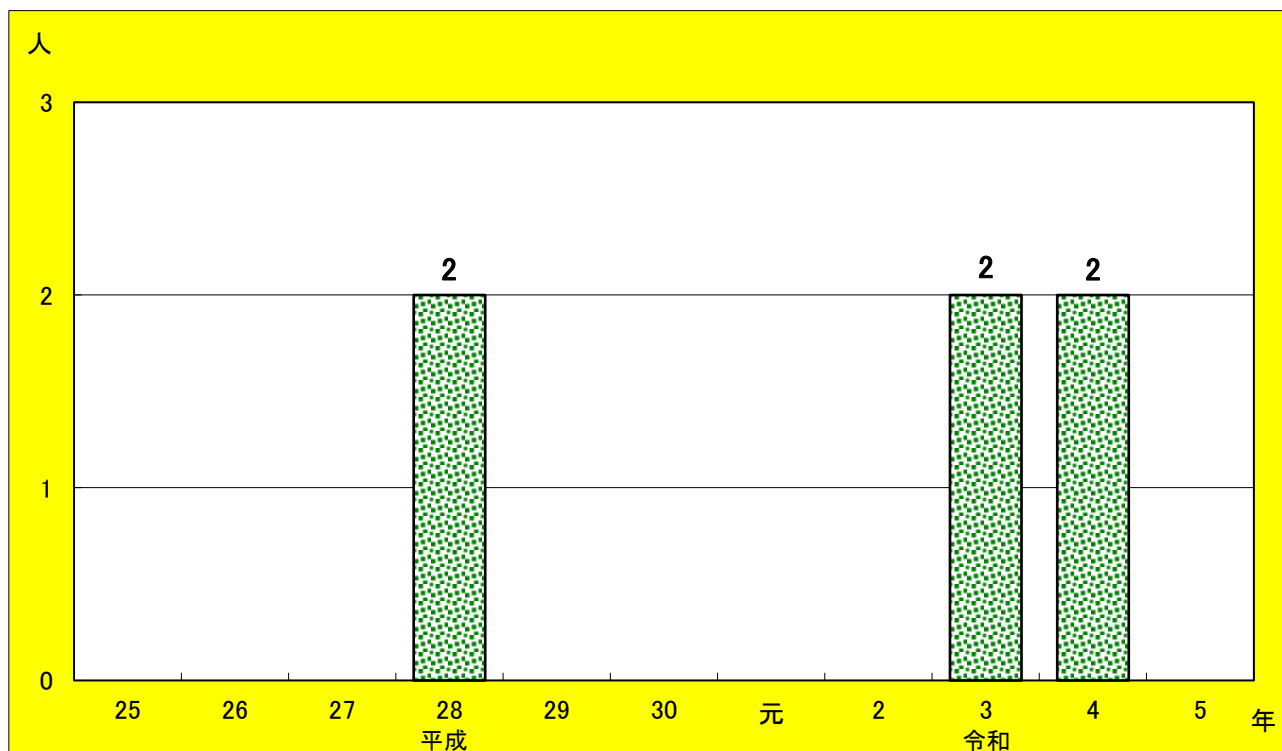
3. 過去10年間の出火率の推移

(件/万人)

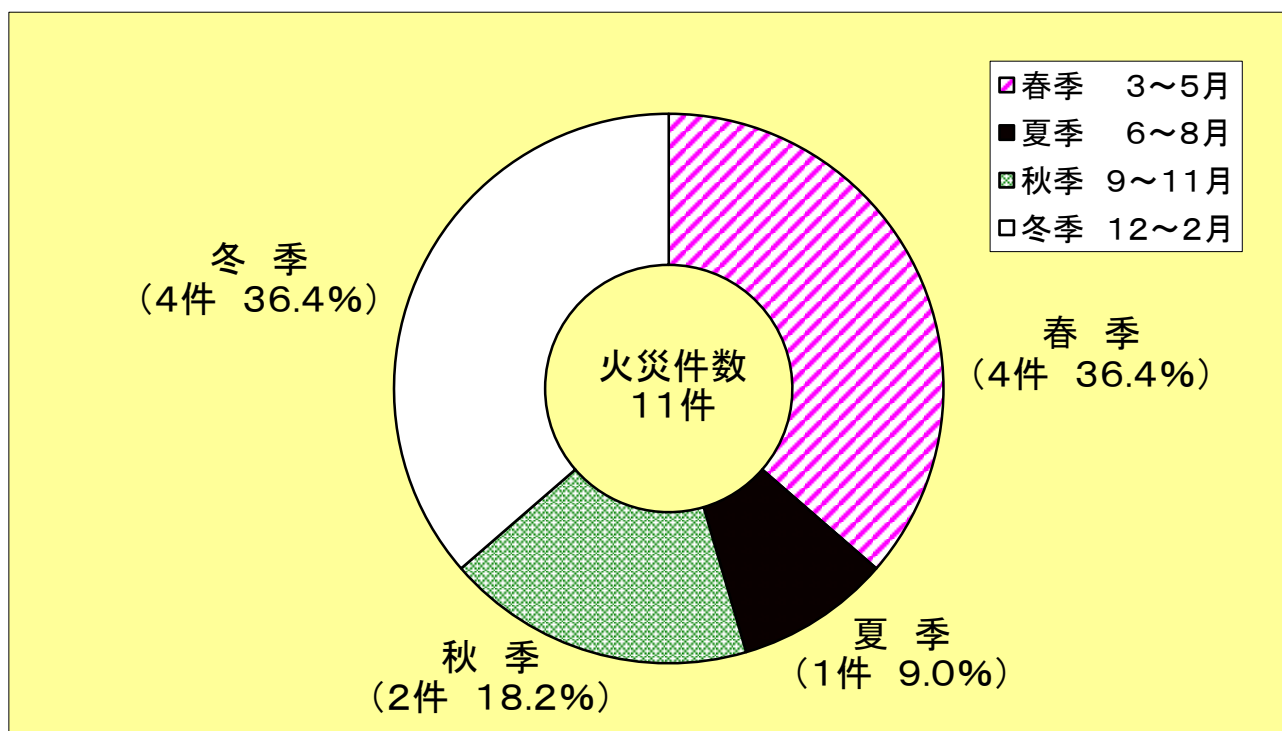


備考 令和5年の山形県及び全国の出火率に関しては、現在集計中のため未発表。

4. 火災による死者の状況

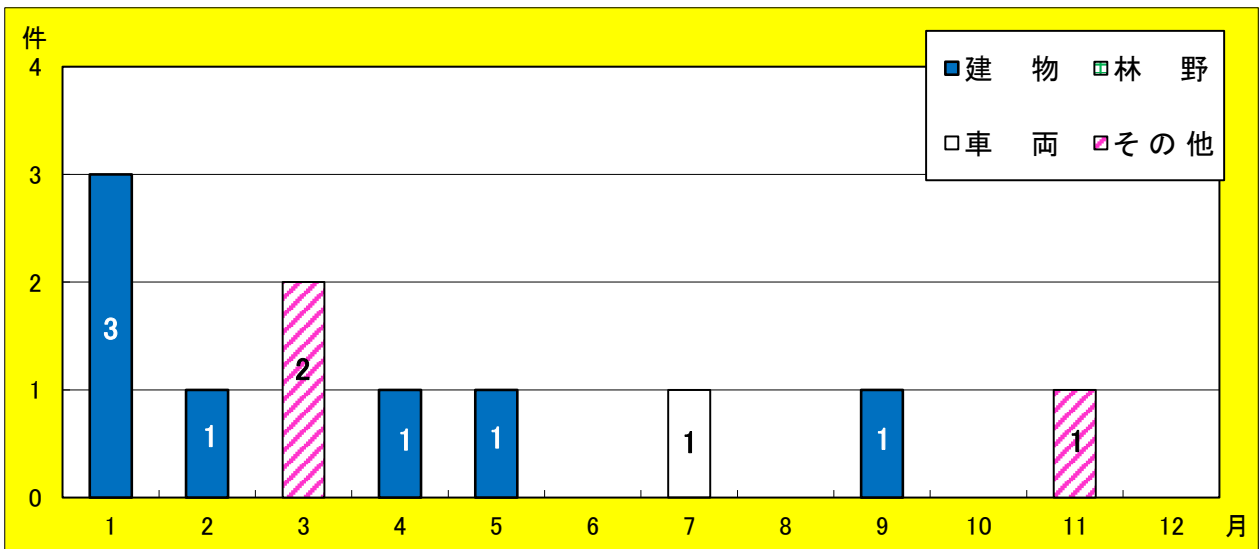


5. 四季別火災発生状況

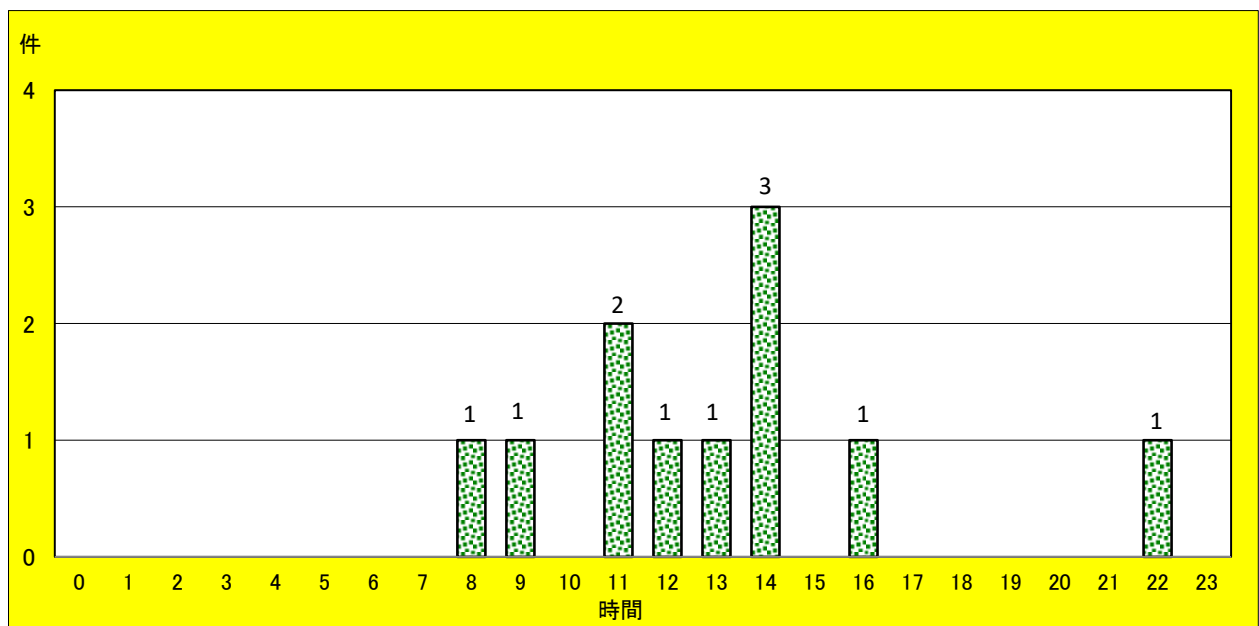


6. 月別火災発生状況

火災種別 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
建 物	3	1		1	1				1				7
林 野													0
車 両							1						1
そ の 他			2								1		3
合 計	3	1	2	1	1	0	1	0	1	0	1	0	11

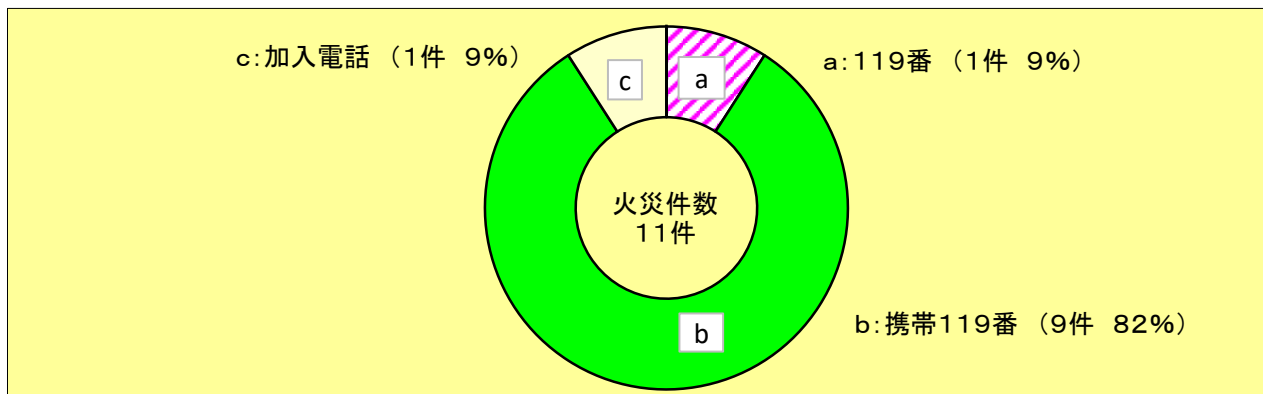


7. 時間帯別火災発生状況



8. 覚知別火災発生状況

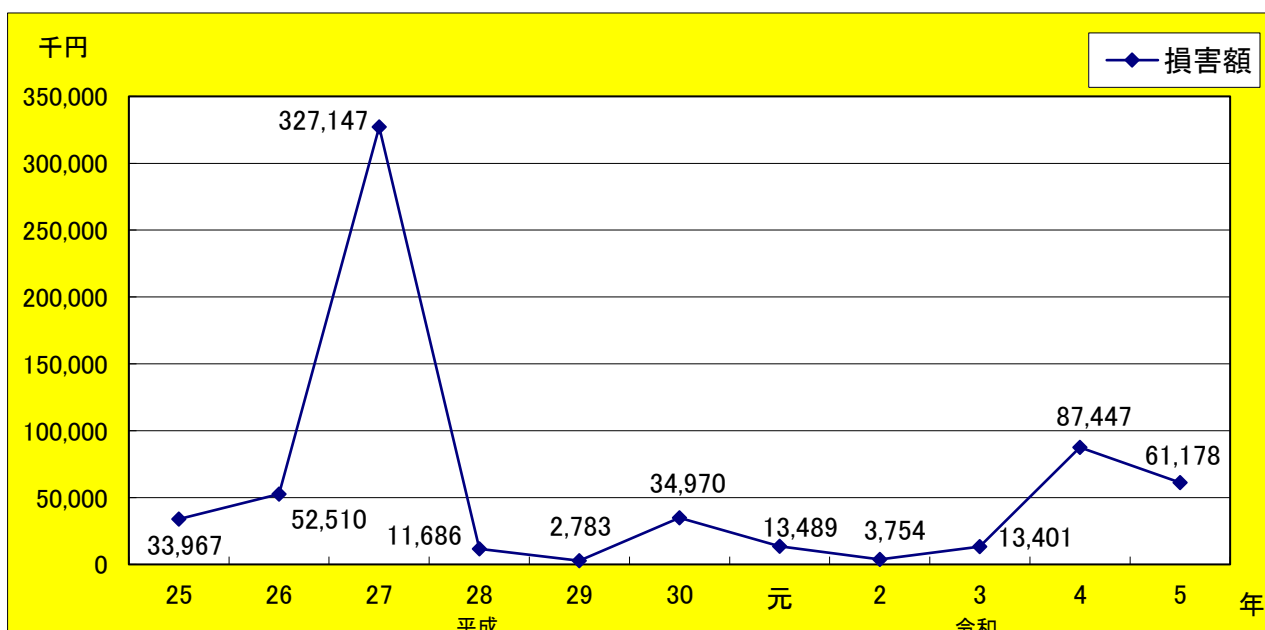
覚知種別 火災種別	119番	携 帯 119番	加入電話	事後聞知	警察電話	その他	合計
建 物	1	5	1				7
林 野							
車 両		1					1
そ の 他		3					3
合 計	1	9	1				11



備考 携帯119とは、携帯電話からの119番通報をいう。
 加入電話とは、一般加入電話をいう。
 事後聞知とは、火災鎮火後に覚知したものをいう。
 警察電話とは、消防署と警察署の専用電話をいう。
 その他とは、上記以外で消防機関が覚知したものをいう。

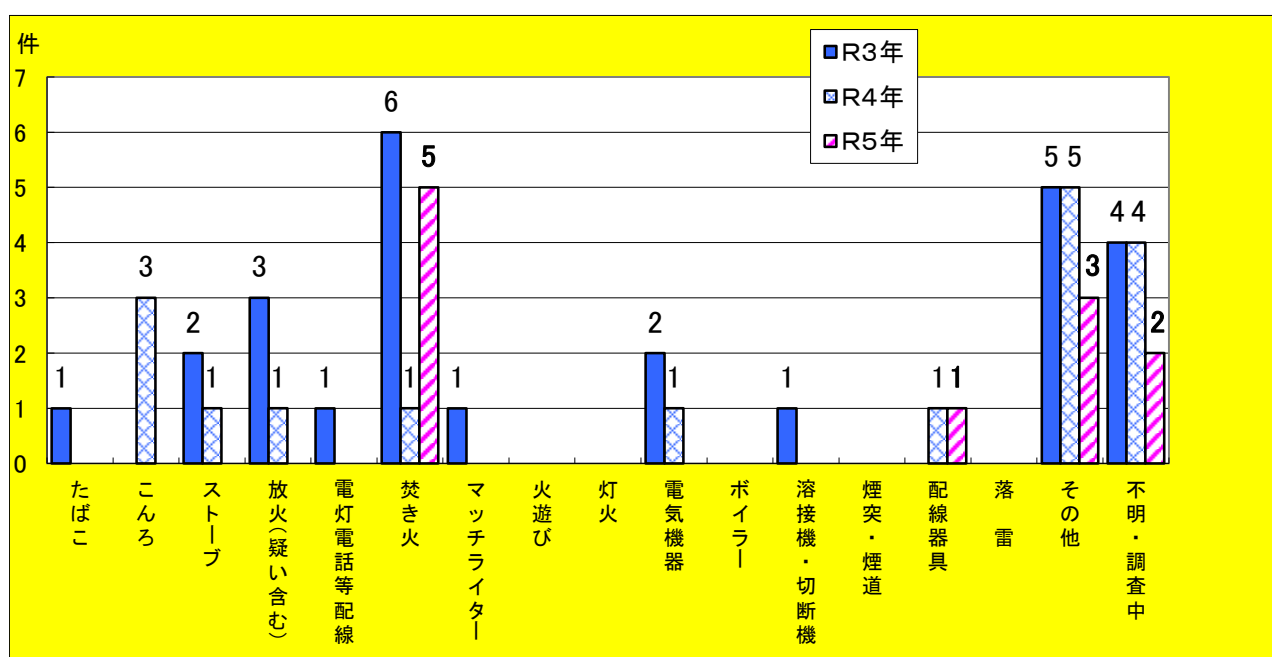
9. 火災による損害額の状況

令和5年中の火災による損害額の合計は61,178千円で、火災1件当たりでは約5,562千円となっております。



10. 原因別火災発生状況

原因 年	たばこ	こんろ	ストーブ	放火(疑い含む)	電灯電話等配線	焚き火	マッチライター	火遊び	灯火	電気機器	ボイラー	溶接機・切断機	煙突・煙道	配線器具	落雷	その他	不明・調査中	合計
R3年	1		2	3	1	6	1			2		1				5	4	26
R4年		3	1	1		1				1				1		5	4	17
R5年						5								1		3	2	11



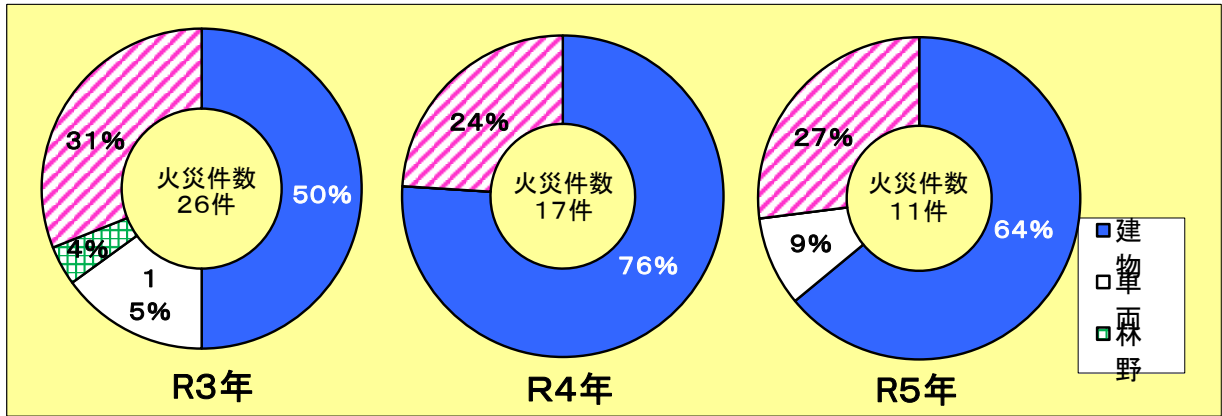
11. 初期消火の状況

初期消火は、全火災11件のうち約73%にあたる8件で行われています。
建物火災においては、初期消火を行った6件のうち2件が成功し「ぼや」で消し止められています。

		全火災	建物	林野	車両	その他
初期消火あり	水をかけた	8 (2)	6 (2)			2
	消火器	2	1			1
	その他	5 (2)	5 (2)			
		1				1
初期消火なし		3	1		1	1
合計		11 (2)	7 (2)		1	3

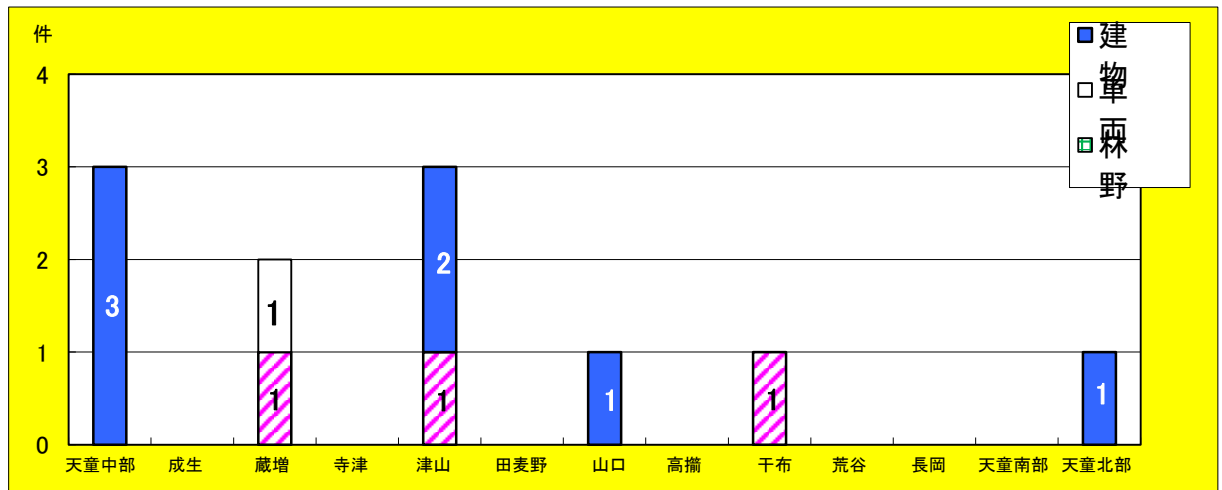
() は初期消火に成功した件数

1 2. 過去3年間の火災構成比



1 3. 地区別火災発生状況

火災が発生した場所を地区別にみると、天童中部地区と津山地区で各3件発生し、次いで蔵増地区で2件、山口・干布・天童北部地区で各1件、無火災地区は成生・寺津・田麦野・高揃・荒谷・長岡・天童南部地区となっています。



1 4. 過去10年間の地区別火災発生状況

